

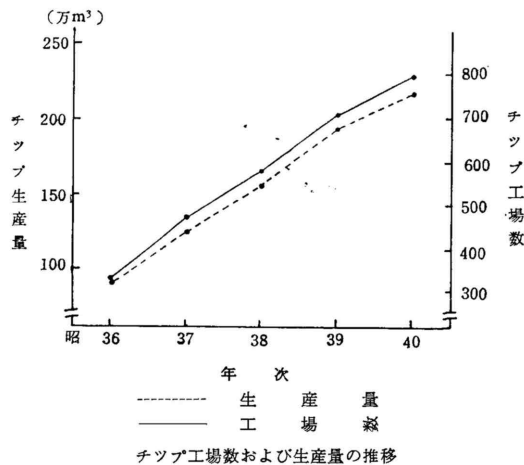
# 道内のチップ生産の近況

池田修三

## 生産量の動向

パルプ工業の原料は、従来針葉樹の素材が主であったが、パルプ需要の増大にともない、針葉樹素材の不足ならびに価格の騰貴などから、パルプ用材の消費構造は針葉樹中心から広葉樹に移り、さらに廃材チップへの依存度を高めるに至った。昭和35年のパルプ原料に占める廃材チップの割合は15%程度に過ぎなかったものが、その後下図<sup>1)</sup>に示すように年々廃材チップの消費量は増大し、チップ工

場数も需要の増加と共に増設され、昭和40年末におけるチップ工場数は753工場、年間生産量は227.6万<sup>3</sup>、パルプ原料に占める廃材チップの割合は50%を超えるに至った。これを全国に比べると工場数で13%、生産量は27%を占めている現況にある。



## 原料の動向

農林省北海道統計調査事務所の調べによれば、第1表に示すように昭和40年における廃材チップの生産量は227.6万<sup>3</sup>であり、これは前年に比べて13%の増加である。生産量のうちパルプ用が225.6万<sup>3</sup>で99%を占め、繊維板用は2万<sup>3</sup>で1%となっている。つぎ

第1表 原料の入手区分別チップ生産量<sup>1)</sup>

(単位：1,000m<sup>3</sup>)

年次	総数	工場残材		林地残材		素材 (原木)	
		自己の工場から振り向けたもの	他の工場から購入したもの	国有林から購入したもの	その他		
39年	総数	2,009	824	181	288	141	
	針葉樹	822	399	104	183	18	
	広葉樹	1,187	425	77	105	123	
40年	総数	2,276	948	131	278	126	
	針葉樹	806	411	74	167	10	
	広葉樹	1,470	537	57	111	116	
前年対比 (%)		113.3	115.0	72.4	96.5	89.4	137.9

に原料の入手区分別の生産量は、工場残材からのものが107.9万<sup>3</sup>で47%、素材からのものが79.3万<sup>3</sup>で35%、林地残材からのものが40.4万<sup>3</sup>で18%の構成比である。これを前年に比べると、素材からのものが38%と最も大きく伸び、ついで工場残材の7%増、林地残材は6%の減少となった。また工場残材のうち、自己の工場から振り向けたものは前年に比べ15%伸び、他の工場から購入したものは28%減少した。

廃材チップ生産量の増加は、パルプ需要の増大ならびにパルプ原料の素材入手難などから、廃材チップの利用が促進されたものであり、入手区分別の生産量で素材からの伸びが著しいのは、皆伐による低質材および除間伐による小径木の利用が増加したことと、これらを原料とする木材チップ専門工場の新設によるものである。また工場残材から生産されるチップ原料のうち、他の工場から購入するものが減少したのは、各製材工場にチップ工場が併設増加されたためであり、一方林地残材の利用が減少したのは、伐採地の奥地化などによる伸びなやみのようである。

## 設備の動向

チップ工場の一般的設備としては、スラッシャー、パーカー、チップパー、スクリーン、ナイフ研磨機等で、この内主要なものはパーカーとチップパーである。

第2表 チップ製造設備<sup>1)</sup>

年次	チップパー (径級別)					パーカー		スラッナイフ	
	総数	500mm未満	500~900mm	900~1050mm	1050mm以上	ドラムパーカー	カットパーカー	シャ-	研磨機
39年 末 (台)	775	34	423	199	119	91	513	46	669
40年 末 (台)	858	44	479	204	131	132	587	47	710
前年対比 (%)	110.7	129.4	113.2	102.5	110.1	145.1	114.4	102.2	106.1

第3表 チップ工場数, 従業員数<sup>1)</sup>

年次	工場数			従業員数 (人)		
	総数	製材工場の有無		総数	常	用 時 時
		有	無			
39年 末	673	588	85	4,138	3,233	905
40年 末	753	649	104	4,335	3,481	854
前年対比 (%)	111.9	110.4	122.4	104.8	107.7	94.4

それらの台数を第2表に示した。

チップ工場に不可欠のものはチップパーである。これを基準にして第2表をみると、昭和40年末のチップパー総数858台、このうち径級別では500~900mmのものが約56%を占め、中心的機種となっている。前年比の増加率では900mm以下のものの伸びが大きい。この傾向は全国の設備動向<sup>2)</sup>に似ている。

### 第3表にチップ

工場数と従業員数を示した。40年末のチップ工場総数は753工場、これを第2表のチップパー総数858台と比

較すると、1工場当りのチップパー1.14台ということになり、実際には最大3~4台から最小1台に分布し、1台の工場が大部分である。従業員数は1工場当り約5人となっている。

なおチップ工場の原料に対する製品の平均歩止りは94.8%<sup>3)</sup>である。

### 参考資料

- 1) 農林水産統計速報41-26: 昭和40年木材チップ工場調査結果概要, 農林省北海道統計調査事務所, 昭41年7月
- 2) 米沢保正: 木材チップ工業の現状と問題点, 木材工業, Vol.21, No.6 (1966)
- 3) 昭和40年度北海道林業統計: 北海道, 昭41年11月

- 林産試 加工科 -